

令和6（2024）年度ペアレント・サポート・プログラム

# 学校・支援機関と保護者が より良い関係を築くコツ

令和6（2024）年11月28日（木）

柏崎市教育委員会 学校教育課

指導主事 小林 圭介

（特別支援教育担当）

# 本日の内容

- 1 15:00～15:20 特別支援教育について
- 2 15:20～15:45 学校・支援機関との連携について
- 3 15:45～16:15 グループワーク
- 4 16:15～16:45 質疑応答

# 本日の内容

- 1 15:00～15:20 特別支援教育について
- 2 15:20～15:45 学校・支援機関との連携について
- 3 15:45～16:15 グループワーク
- 4 16:15～16:45 質疑応答

# 特別支援学校等の児童生徒の増加の状況(H24→R4)



- 直近10年間で義務教育段階の児童生徒数は1割減少する一方で、特別支援教育を受ける児童生徒数は倍増。
- 特に、特別支援学級の在籍者数(2.1倍)、通級による指導の利用者数(2.3倍)の増加が顕著。

## 義務教育段階の全児童生徒数

(平成24年度) 1,040万人  
(令和4年度) 952万人  
0.9倍

## 特別支援教育を受ける児童生徒数

30.2万人 (2.9%)  
59.9万人 (6.3%)  
2.0倍

### 特別支援学校

視覚障害 聴覚障害 知的障害  
肢体不自由 病弱・身体虚弱

6.6万人 (0.6%)  
8.2万人 (0.9%)  
1.2倍

### 小学校・中学校

#### 特別支援学級

知的障害 肢体不自由  
身体虚弱 弱視 難聴  
言語障害 自閉症・情緒障害

16.4万人 (1.6%)  
35.3万人 (3.7%)  
2.1倍

#### 通常の学級 (通級による指導)

言語障害 自閉症 情緒障害  
弱視 難聴 学習障害  
注意欠陥多動性障害  
肢体不自由 病弱・身体虚弱

7.2万人 (0.7%)  
16.3万人 (1.7%)  
2.3倍

※平成24年度は公立のみ

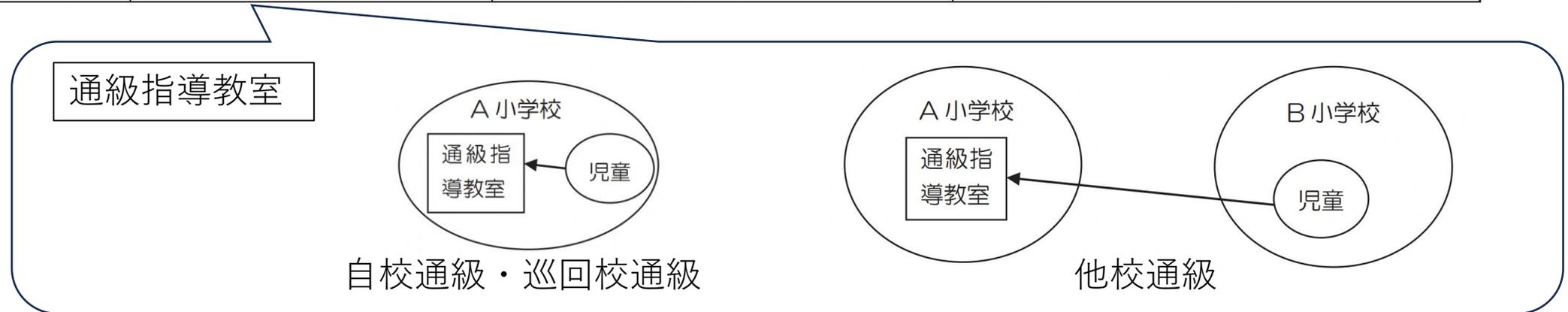
※通級による指導を受ける児童生徒数(16.3万人)は、R2年度の値。H24年度は5月1日時点、R2年度はR3.3.31時点の数字。

# 特別支援教育とは（定義）

特別支援教育は、障害のある幼児児童生徒の  や  に  
向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、幼児児童生徒一人一  
人の  を把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の  
困難を  又は  するため、適切な指導及び必要な支援を行  
うもの。

# 通常学級・特別支援学級・特別支援学校の形態

	通常学級	特別支援学級	特別支援学校
クラスの人数	<ul style="list-style-type: none"> <li>1学級40人編制</li> <li>※ 段階的に35人に移行中</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1学級8人以下の編制</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小、中学部は1学級6人以下の編制（2つ以上の障害を併せ有する場合は3人以下）</li> </ul>
授業形態	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級単位の授業が一般的で、おおむね一斉指導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>交流学級（通常学級）での授業と少人数や個別での授業を組み合わせている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援学級以上に個別の課題に合わせた指導が可能である。</li> </ul>
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年に応じた教科書の内容を中心に指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年に応じた教科書や、児童生徒の実態に応じた内容</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒の実態に応じた学習内容</li> </ul>
担当教員	<ul style="list-style-type: none"> <li>おおむね学級を1人の教師が指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ほとんどは担任1人で対応し、介助員等が配置されることがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>複数担任制</li> <li>特別支援学級に比べて教員数が多い。</li> </ul>



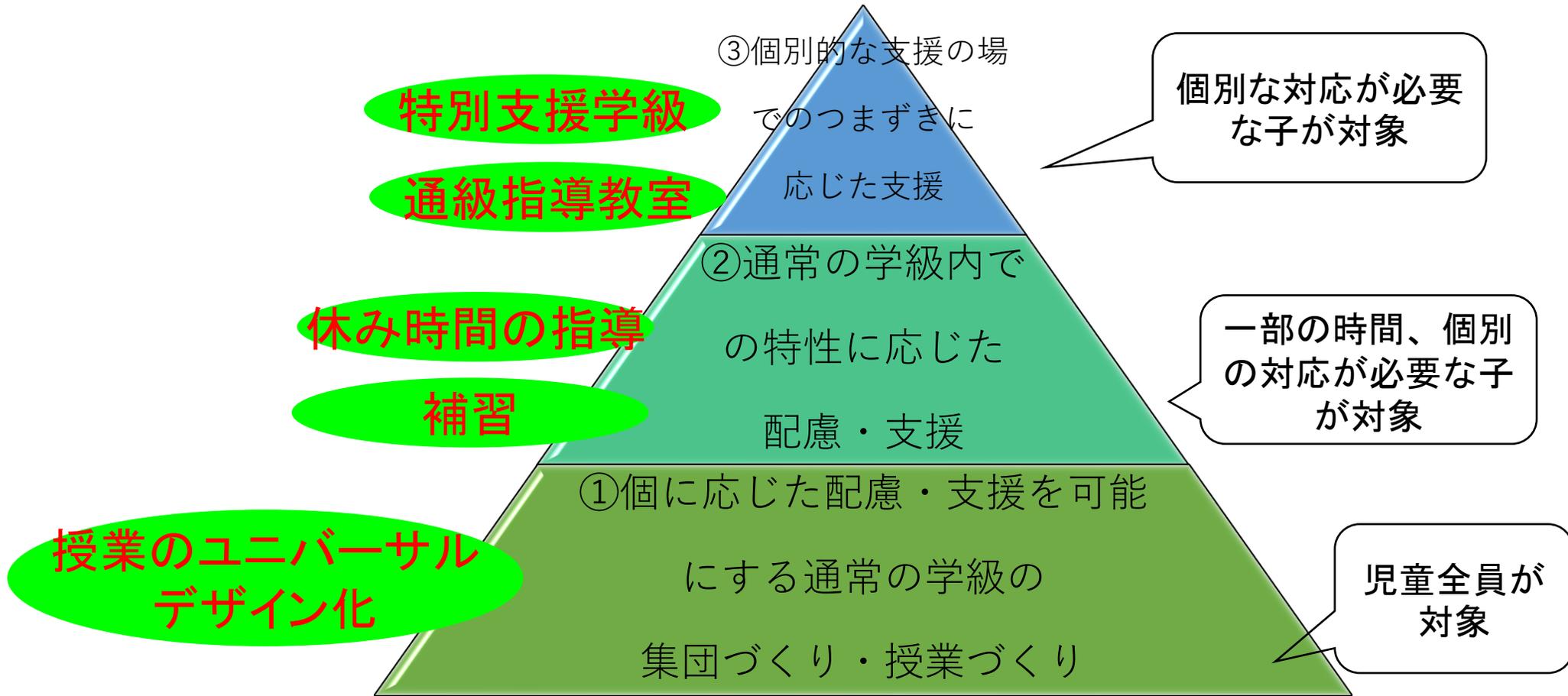
## 特別支援教育に関する最近の通知・報告等より

### < 特別支援教育に関する校内支援体制の充実 >

- ・ 校長のリーダーシップの下、特別支援教育コーディネーターを核として 全職員で組織的に対応する校内支援体制の確立を図るとともに、その中心となる校内委員会の在り方について再検討する必要がある。

- ・ 校内委員会は、学習面又は行動面で著しい困難を示す児童生徒を幅広く支援の対象とするとともに、通常の学級の中でどの程度の支援を必要としているのかを把握し、通常の学級の中でできる方策を検討した上で、通級による指導や特別支援学級の必要性を検討していくことを求める。

# 通常の学級に在籍する子どもへの支援の順序



障害名で学びの場は決まらない。  
適切な支援とその結果で決まっていく。



- |       |             |
|-------|-------------|
| ①逃避   | 「とにかく逃げたい」  |
| ②注意喚起 | 「みてみて、かまって」 |
| ③物の要求 | 「ちょーだい」     |
| ④自己刺激 | 「安心、きもちいい」  |



## 行動問題への対応のポイント

○環境調整（人的・物的）

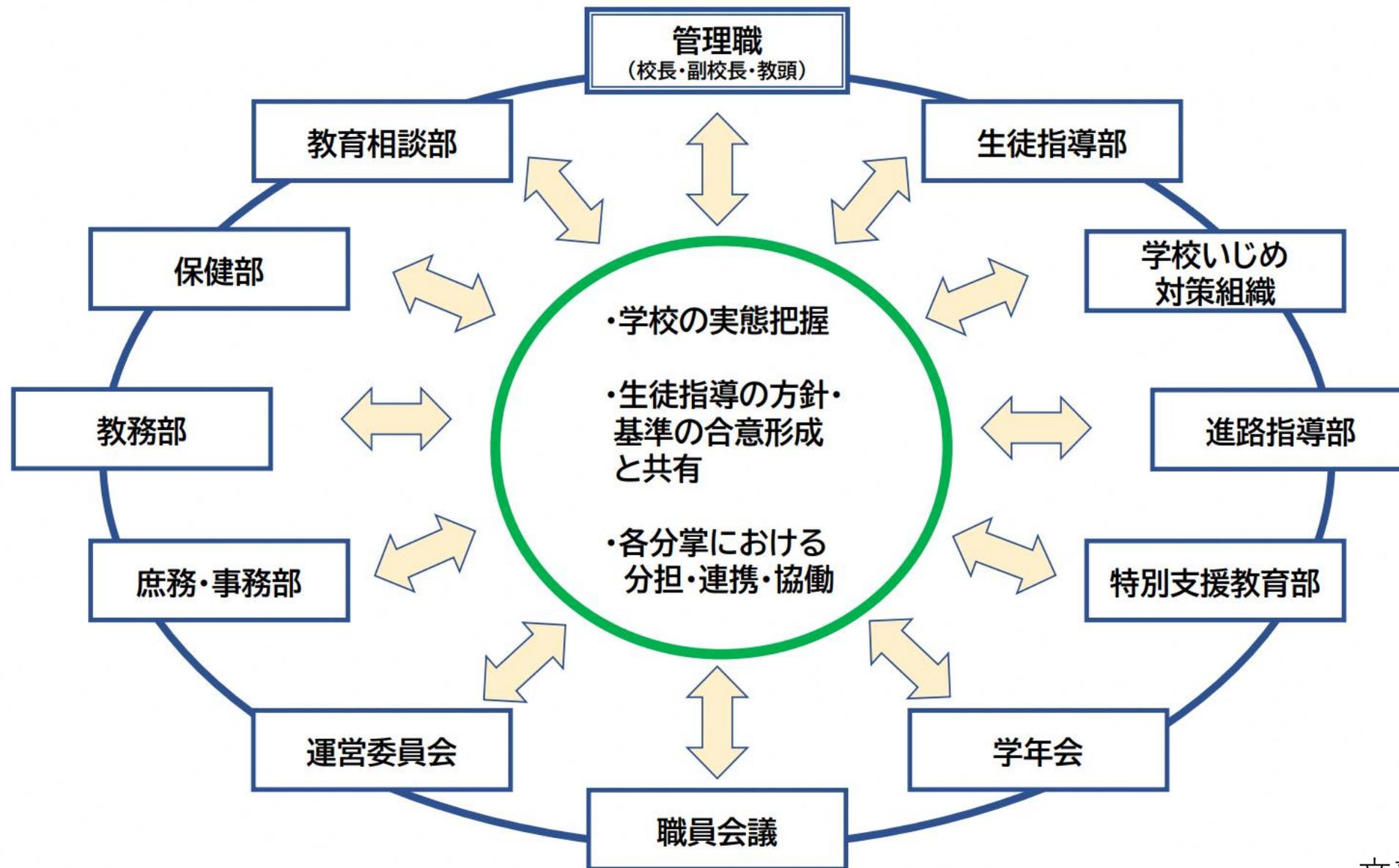
○不適切行動には短く指摘＋やるべきことを教える＋「ありがとう」「できたね」で終わる

○適切行動が生起した時と不適切行動が起こっていないときにプラスのフィードバック

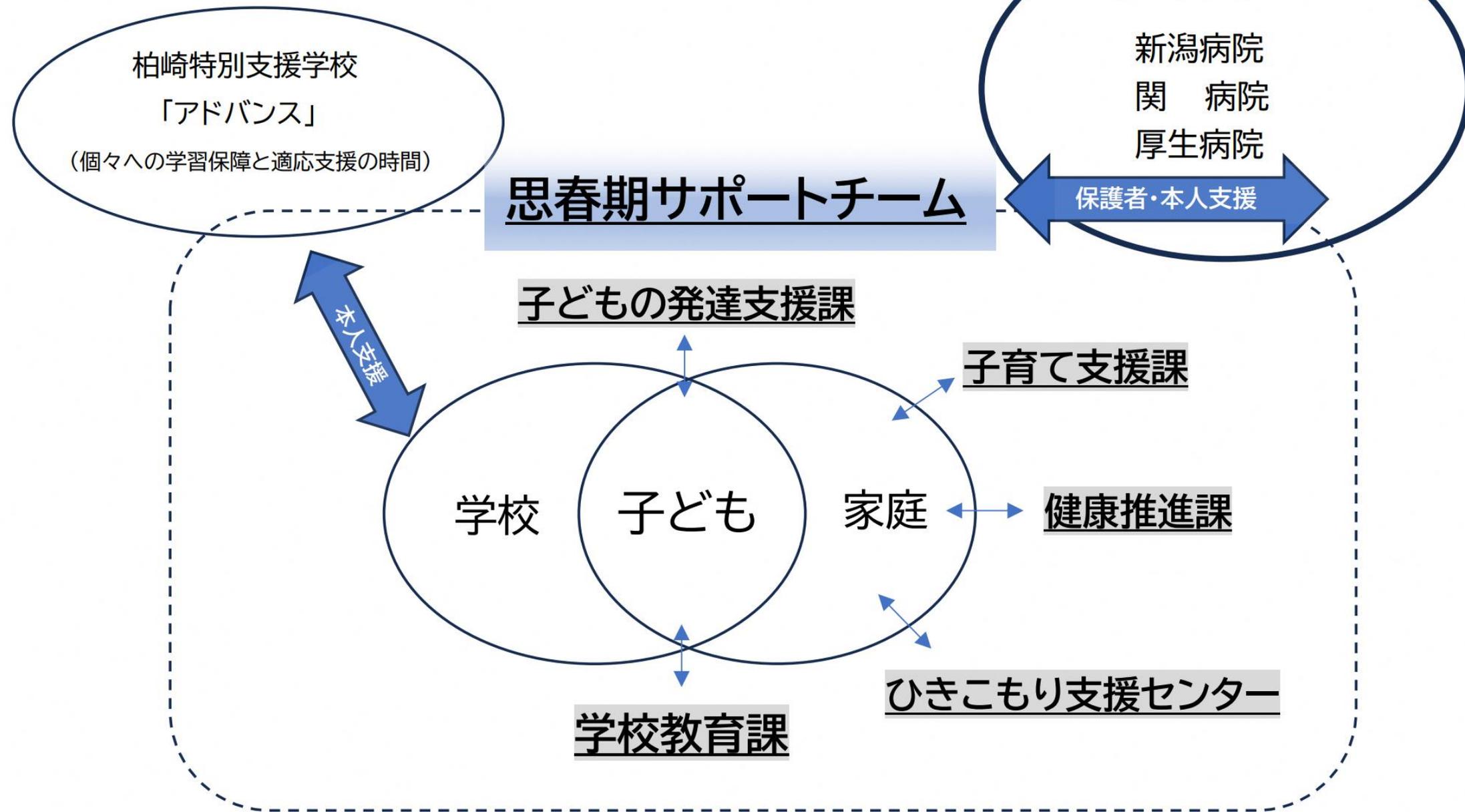
# 本日の内容

- 1 15:00～15:20 特別支援教育について
- 2 15:20～15:45 学校・支援機関との連携について
- 3 15:45～16:15 グループワーク
- 4 16:15～16:45 質疑応答

# チーム学校における学校組織



# 柏崎市の小中学生を支える「思春期サポートチーム」



学校と保護者をつなぐ「個別の教育支援計画」 「個別の指導計画」

## 個別の教育支援計画

(例)

- ・ 診断や諸検査の結果
- ・ 関係機関
- ・ 学校生活上の困難さ
- ・ 本人、保護者の教育的ニーズ
- ・ 卒業後の進路
- ・ 教師の願い

など

## 個別の指導計画

(例)

- ・ 実態
- ・ 長期目標
- ・ 配慮事項
- ・ 短期目標
- ・ 指導方法、指導場面
- ・ 評価

など

子どもを中心に大人の「応援団ネットワーク」をつくりましょう

集団生活でのスキル…学校の先生など

子どもの個人のスキル…特別支援学級・通級の先生、療育の先生など

子どもの発達状況…医者、心理士（師）など

子どもの心、保護者の心…スクールカウンセラー、心理士（師）など

機関同士の連携…学校の管理職、特別支援教育コーディネーター、相談支援専門員  
など

西木(2024)

いつでも相談できる人や機関はありますか？

# 本日の内容

- 1 15:00～15:20 特別支援教育について
- 2 15:20～15:45 学校・支援機関との連携について
- 3 15:45～16:15 **グループワーク**
- 4 16:15～16:45 質疑応答

## グループワークの進め方

- ①自己紹介（子どもの性別、学年、診断や状態）
  - ②テーマトーク
    - ・学校とこうやってうまく関係を構築した！
    - ・関係機関との連携がうまくいった！
    - ・最近の悩み など
- ※ぜひ良い事例があったら紹介してください。
- ③講師への質問

# 本日の内容

- 1 15:00～15:20 特別支援教育について
- 2 15:20～15:45 学校・支援機関との連携について
- 3 15:45～16:15 グループワーク
- 4 16:15～16:45 質疑応答